

MDM移行 チェックリスト

Macの管理は、ビジネスの遂行とセキュリティ運用において極めて重大です。モバイルデバイス管理 (MDM) はすべてのデバイスに関わるため、新しいソリューションへの移行には、セキュリティと生産性を維持しながら業務への影響を最小限に抑えるための計画、調整、明確な焦点が不可欠です。

以下では、Mac向けMDMソリューションの移行プロセスを3つの実践的な段階に分け、IT、部門が移行プロジェクトの計画、実行、レビューを行う際のヒントを紹介します。



計画

(移行前)

リスク評価の結果や最新のインベントリなどの重要な情報を収集し、移行目標を明確に設定します。プロジェクトが軌道から逸れないように、進捗を追跡するためのKPIをいくつか定義します。

移行前

- 1 MDMインフラを一覧化
- 2 リスク評価を実施
- 3 コンプライアンス面のニーズを特定
- 4 目標とKPIの設定
- 5 データバックアップ戦略の策定
- 6 移行作業手順を策定
- 7 綿密なテストの実施
- 8 ドキュメント化し反復的に改善
- 9 導入後の問題対応計画を策定
- 10 ユーザの情報共有とトレーニング



実行

(移行中)

計画段階で収集したデータを活用して、既存のMDMソリューションから新しいソリューションへの移行を実施します。この段階では、進捗状況を監視し、業務への影響を最小限に抑えながら、ワークフローとツールを統合してデバイスの再登録を行います。

移行中

- 1 本番環境で使用する新しいMDMソリューションを設定
- 2 パイロットプログラムで移行を検証
- 3 データバックアップを実行 (必要な場合)
- 4 管理対象デバイスの移行を準備
- 5 移行元のMDMで管理対象デバイスの登録を解除
- 6 移行先MDMにデバイスを登録
- 7 プロジェクトの進捗を監視
- 8 デバイスインベントリを収集し確認
- 9 デバイスのコンプライアンスを確保
- 10 バックアップデータを復元



レビュー

(移行後)

移行プロジェクトのレビューを行うことで、移行に成功した部分と改善が必要な部分を評価できます。進捗、パフォーマンス、コンプライアンスをKPIと照らし合わせ、この移行が技術面とビジネス面の両方で期待に応えられたかを確認します。

移行後

- 1 移行したデバイスの登録状態を検証
- 2 パフォーマンスを継続的に監視
- 3 コンプライアンスポリシーを更新 (必要な場合)
- 4 関係者からフィードバックを収集
- 5 未解決の問題/懸念事項を解決
- 6 移行元のMDMとツールをクリーンアップ
- 7 移行元のMDMソリューションを完全に廃止
- 8 ROI/TCO指標を測定
- 9 得られた教訓のドキュメント化
- 10 アップデートを継続的に実行

MDMの移行を成功させるうえで重要な検討事項

MDMソリューションの移行を成功させるための核となる要素は、データの保護と業務中断の最小化です。移行の3つの段階を通して、組織はデバイスのコンプライアンス違反からユーザの生産性低下に至るまで、様々なリスクに直面する可能性があります。これらのリスクは、以下の原則に従うことで最小限に抑えられます。



移行の計画を立ててテストを実施することで、**リスクを軽減し、ダウンタイムを抑える**



移行を円滑に進められるように、関係者およびエンドユーザと定期的に情報を交換する



コンプライアンスを維持できるように、各段階で**セキュリティを最優先事項とする**



データに基づいた改善に役立つように、**重要な決定事項と結果を文書化する**



得られた教訓と関係者からのフィードバックを活用して、プロセスを継続的に改善する

まとめ

MDMソリューションの移行を成功させるには、セキュリティの強化、効率の向上、長期的な運用支援を実現できるように、明確な計画を立て、円滑に実施し、綿密なレビューを行うことが不可欠です。これは、単なる技術的な変更にとどまらず、管理の簡素化、コンプライアンスの強化、チームの生産性維持を実現する絶好の機会にもなります。

3つの段階を軸とした実践的な戦略を構築し、**セキュリティ、シンプルさ、継続性に重点を置くことで、MDMの移行を妨げる直面しがちな課題を回避しましょう。**